

分校の窓から

2月・3月合併号

02
03
2023

3.1 令和4年度 卒業証書授与式

3月1日（水）、春の訪れが微かに感じられる中、令和4年度卒業証書授与式が美里分校体育館で執り行われました。高校生にとって一生に一度の卒業式でさえも、新型コロナウイルス感染症によって簡素な形式での実施を強いられてきましたが、今回4年振りに来賓を迎えて催されました。

5名の卒業生は3年前、期待に胸を膨らませて美里分校に入学したものの、入学式翌日から臨時休校に見舞われるなど、コロナ禍の影響をまともに被った学年でした。入学してもいつ始まるかわからない学校生活や、クラスメート、先生にも会えない家庭学習の日々に不安を募らせたことと思います。

5月に分散登校が始まりましたが、学年別の分散登校を実施したため、先輩と初めて対面したのは通常登校が始まった6月に入ってからのことでした。高校生活のスタートが特異な形で始まったせいか、入学当初は周囲が心配するほどのおとなしい生徒たちでした。

あれから3年。マスク姿で過ごし、修学旅行をはじめ多くの行事が中止や縮小に追い込まれるなど、制約が多い高校生活を過ごしてきました。途中、それぞれが困難にぶつかり心配する時期もありましたが、皆それらを自分で乗り越えて卒業の日を迎えました。

この間、おとなしいイメージは変わらないまま、学年があがるにつれて頼もしさを身につけていきました。優しく思いやりがある彼らは普段から仲が良く、楽しそうに話し合いながら取り組んでいる姿をしばしば見かけました。

会場に卒業生を迎えると、太鼓部が『轟き』を演奏し卒業の門出を祝いました。今年度太鼓部が大会等で取り組んできた楽曲に、「未来に轟け」という卒業生への想いをこめて力強い太鼓の音を響かせました。

式が始まり、卒業生一人ひとりに卒業証書を手渡した後、川久保校長は式辞でコロナ禍に触れ、私たちは誰もが経験したことがないような大規模な変化が起きる時代に生きていると述べました。そして、大きな変革の波が押し寄せることがあっても、美里分校での学びや経験が自分を支えてくれると、自信を持って新たなステージに羽ばたいてほしいとエールを贈りました。

前の生徒会長を務めた谷口僚くんが答辞で「前を向いて歩いていく」という言葉を紹介しました。苦しくても立ち止まらずに一歩ずつ確かに進んでいくことを大切にしてほしいと後輩たちに伝え、卒業生もそれぞれが行く道で困難に突き当たっても、決して折れずに乗り越えていくと誓いました。

卒業式終了後、体育館前で卒業生たちが互いに写真を取り合う姿がありました。彼らにとって分校での3年間はどのように記憶されるのでしょうか。

最後のホームルームを参観された保護者の方々から「子どもが3年間美里分校で過ごすことができ本当に良かった」と言っていたきました。彼らの成長に接してきた我々にとって、これほど嬉しい言葉はありません。職員一同、卒業生が今後も成長を続け活躍することを心から祈っています。



この時期になると1年間のまとめや、新しい年度に向けた準備で何かと忙しくなってきます。進路指導についても、2年生はいよいよ最終学年となり、進路決定の大事な時を迎えます。年度末が近づいた2月、生徒の進路意識を高めるため多くの進路行事が行われました。

ほとんどの生徒が高校に進学する中学校の進路指導とは異なり、高校では進学から就職まで卒業後の進路が多岐にわたります。それぞれの選考や採用の方法が異なるため、入学後の早い段階から進路意識を高めて準備をすることが重要です。また、大学等の推薦入試では3年間の学習成績が問われることがあり、就職でも3年間の欠席日数が10日を超えると採用に影響するといわれています。つまり、卒業後の進路選択は、高校に入学した時点から始まっているといえます。

とはいえ、高校生が入学してすぐに進路希望を決めるのは容易なことではありません。卒業後にどんな進路選択があるのか、その進路を

選ぶにはどんな条件があるのかを知る必要があるからです。美里分校では毎年たくさんの進路行事が行われています。こうした機会を捉えて自分から積極的に情報を集めていってほしいと思います。

もうひとつ進路を考える上で大切なことは、自分を知ることです。自分は何に興味があり、どんな適性があるのか。これらを把握していなければ、多くの選択肢の中から希望の進路を決めることもできません。

美里分校の特色のひとつに、学校行事や体験活動の豊かさがあります。様々な体験を通して、「人と話すことが好き」「機械を触ることが楽しい」「頭を使うより身体を動かす方が得意」「人前が出るよりも裏方の方が向いている」といった自分の適性に気がつくことができます。進路選択においては、こうしたことが進路決定の鍵になることがあります。様々な行事や活動に前向きに取り組み学校生活を充実させることは、自分の進路を考える上でとても有意義なことだといえます。

自分の進路を考える

2.8・9 職業理解セミナー

2月8日（水）と9日（木）、1・2年生を対象に職業理解セミナーを開催しました。寸劇やワークショップを通して“職業”について考える取組です。

1日目は（株）さんぼうの青柳貴大さんを講師に迎え、お仕事MAPを作成するワークショップを行いました。グループに分かれ、テーマの「ペットボトル」という言葉から思いつく「仕事」を連想していきました。限られた時間でしたがみんなと話し合いながら進めると、テーマからはすぐには結びつかないような仕事を見つけることができました。世の中には数多くの企業や職種があり、27,000種類を超える仕事があるそうです。

青柳さんは、普段から仕事について視野を広げておくことや、自分の興味・関心、適性など、学校や普段の生活の中で“職業”を意識しておくことが大切だと教えてくれました。

2日目は「正社員とフリーターの違い」「挨拶・マナーの心得」をテーマにした寸劇を鑑賞した後、各分野に分かれての職業理解講座を受講しました。「公務員・ビジネス」「食物・栄養」「福祉」各分野の短大や専門学校の先生から業界や仕事内容について説明を受け、それぞれの特徴をポスターにしてまとめました。

【協力】 ㈱さんぼう 和歌山信愛女子短期大学 和歌山社会福祉専門学校 大原学園



職業理解セミナー



職業理解セミナー



職業理解セミナー



職業理解セミナー

2.15 職業レディネステスト

2月15日（水）、若者サポートステーション With You から土居喜美子さん、芝田布志子さんをお迎えし、1・2年生を対象に職業レディネステストを実施しました。このテストは生徒の職業に対する準備度（レディネス）を把握し、職業に対するイメージチェックや進路選択への動機付けを促すことを目的に行うもので、分校では初めての試みとなります。

テストは3種類の検査で構成され、それぞれの簡単な質問に答えていくことで、生徒の興味のある職業領域や職業への興味・関心の基礎となる基礎的志向性、6つの職業領域における職務遂行の自信度がわかります。

検査結果は今後の進路指導の資料として使われます。進路選択をしていく上では、自分の特性を客観的に捉えておくことがとても重要になります。

2.28 社会人スキルセミナー②

2月28日（火）、翌日に卒業式を控えた3年生を対象に、社会人スキルセミナー②を実施しました。このセミナーは7月に1回目を行い、就職の基礎知識から就職活動の流れ、ピ

ジネスマナーなど就職全般について学びました。今回はすでに進路が決まっている3年生に、社会人として必要な知識とスキルを身につけさせることを目的に行われました。

1回目と同じく講師を務めたジョブカフェわかやまの小山貴子さんから、お茶出しや名刺交換の作法などを教えていただきました。